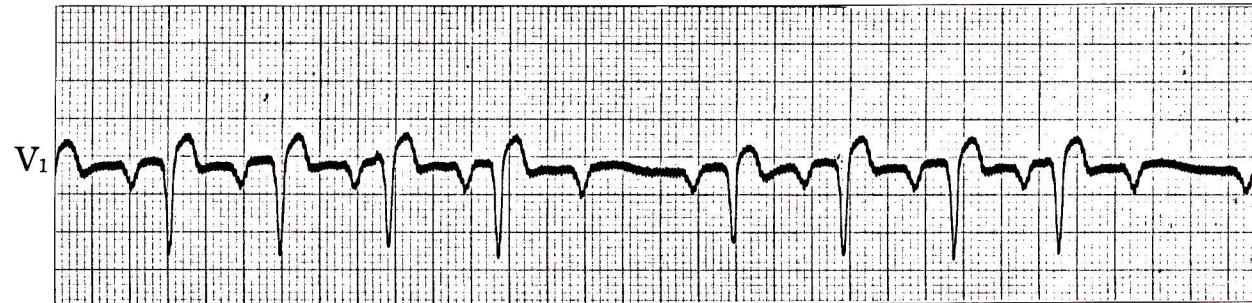


症例 53

●45歳 男

急性前壁中隔心筋梗塞のためCCUに入院。

第1病日に記録された心電図である。



- 1) 第4拍目、第8拍目のQRS波の後でRR間隔が長くなっているが、これは何か。
- 2) 治療はどうすればよい。

心電図診断

モービッツII型の房室ブロック (II度房室ブロックII型)

PP間隔整。

第5番目、第10番目のP波にQRS波が伴っていない。

QRS波を伴っている部分ではPQ間隔一定。

(PQ間隔は徐々に延長することなく、突然QRS波が脱落する。)

解 説

不完全房室ブロックにはウェンケバッハ周期を示すもの(症例52)と、モービッツII型がある。ウェンケバッハ周期を示すものは房室接合部付近の伝導障害で、予後は良好であるが、モービッツII型の房室ブロックは房室接合部より下部の伝導路の障害である場合が多く、しばしばより高度の房室ブロックに移行し、Adams-Stokes発作を起こしやすい。とくに本症例のように前壁心筋梗塞に合併したものは予後不良であり、厳重な監視と人工ペースメーカの適応となる。CCUなど心電図連続モニタ、集中治療が可能な施設へ転送した方がよい。